



第42回養護教員研究大会(研究発表の部)への参加及びオンデマンド配信をご視聴いただき、誠にありがとうございました。養護教員部初のオンライン開催は、運営側としまして多くの学びがありました。課題も残りましたが、先生方からいただいたご意見・ご感想とともに、次年度の運営に生かしたいと思います。

第42回養護教員研究大会(研究発表の部)
アンケート報告(回答者200名/参加者233名)

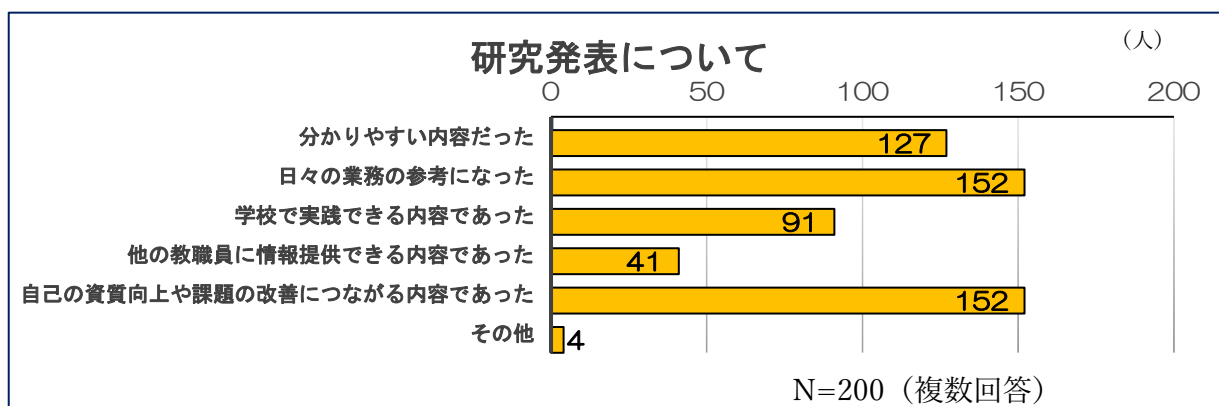
発表支部の先生方
ありがとうございました！

◆ しなやかな心を育てる指導の工夫

ー中学1年生におけるレジリエンス教育を取り入れた学級活動を通してー
発表者 大洲市立菅田小学校 森岡 初美 先生(前任校:大洲市立肱川中学校)

◆ 心理学のエッセンスを取り入れた児童への支援の在り方

ー個別と集団へのアプローチを通してー
発表者 松山市立椿小学校 亀松 千穂 先生(前任校:東温市立北吉井小学校)



オンライン開催についての感想(一部抜粋)

- 一堂に会することができない現状で最良の方法だと思う。会場だと照明が暗くなりメモも取りにくい、オンラインだとパワーポイントも見やすくて良かった。
- 事前接続テスト等もあり、コロナ禍でも安心して研修を受けることができた。
- 移動時間がなく、時間を有効的に使うことができた。
- 保健室を1日閉めることなく、開始時間まで児童と関わる時間を持てたこともよかった。
- 移動に時間がかかるため、オンラインでの開催で気軽に参加しやすかった。また、養護教諭の職務上、子どもに何かあったとき学校に居ることに対応できる面でも良かった。
- 遠距離移動がないことのメリットだけでなく、画面の向こうに大勢の仲間がいて、一緒に学んでいる喜び、繋がりを感ずることができた。
- オンライン開催で、多くの養護教諭と繋がった研究大会であることを実感した。
- 研究発表の間に休憩があると良かった。
- 役員さんの負担が大きいのではないだろうか。





★健康教育研究会★ 報 告



今年度の「健康教育夏季研究会」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い延期となりましたが、山下政克先生に快くご講演をお引き受けいただき、「健康教育研究会」の名称でオンライン開催いたしました。この研究会については、愛教研グループウェアにて期間限定でオンデマンド配信しておりますので、ぜひ各校の先生方にもご紹介ください。

- ◆ 日 時 令和3年12月22日(水) 15:00～17:00
- ◆ 場 所 エスポワール愛媛文教会館
- ◆ 参 加 者 専門局長、養護教員部部長、同副部長、栄養教員部部長、同副部長
- ◆ 講 演 演題 「感染症と体をまもる免疫 ～敵を知り、己を知る～」
講師 愛媛大学大学院医学系研究科長・医学部長
免疫学・感染防御学講座教授 山下 政克 先生

— 山下政克^{まさかつ}先生のご紹介 —

富山県出身(55歳)

筑波大学、大阪大学をご卒業後、藤沢薬品工業(株)に入社、その後、千葉大学大学院医学研究院、かずさDNA研究所ヒトゲノム医学研究室室長など要職を歴任。9年前に愛媛大学に赴任され、現在、愛媛大学大学院医学系研究科長、医学部長、免疫学・感染防御学教授としてご活躍されています。



★ 病原生物と感染症について(敵を知る)

ウイルスは病気を引き起こす微生物の一種。ウイルスは細菌とは違って自分だけでは増えることができず、人の力を借りて増殖する。感染の9割以上は飛沫による。接触感染は稀。机に付いたウイルスはそのまま増殖することはないので、拭き取ることが大事。

★ 新型コロナウイルス感染症について

発症当日が最も感染力が高い。発症前から感染性があるため、なかなか収束しない。変異ウイルスに対して、手を抜かない形で従来の感染症対策をしっかりと行うことが大切。特に、換気をしっかりと。アルコール消毒液はモノにも手指にも両方に使え、一番安くて有効。

★ 感染症から体をまもる免疫(己を知る)

免疫とは、「やまい(疫)から免れるために生体に備わっている機能」。予防、ワクチンには免疫が深く関わっている。ワクチンで免疫を獲得しても、繰り返し自然感染が起これなければ防御免疫のレベルは次第に減弱化する。ゆえに、ワクチンは定期接種の必要がある。

(オンデマンド配信期間) 令和4年1月12日～1月31日

(お知らせとお願い)

- (1) 講演資料は愛教研グループウェア掲示板に添付しています。
- (2) 視聴後、アンケートへの回答もお願いいたします。